

2	法定	自主
	○	

産業廃棄物処理計画書

令和 5年 6月 22日

川崎市長 殿



提出者

住所 神奈川県川崎市川崎区港町7番11号

氏名 代表取締役 豊田 有一郎

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 (044)-244-4401

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	川崎宇部生コンクリート株式会社		自主管理番号 (3605)
事業場の所在地	神奈川県川崎市川崎区港町7番11号		TEL(連絡先): (044)-244-4401
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年間)		
当該事業場に関する事項			
① 事業の種類	E21-窯業・土石製品製造業 (具体的には) 生コンクリート製造・販売		
② 事業の規模 ※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	1389 百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	百万円
	医療機関	病床数	床
	その他の業種	売上高	百万円
	(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)		
③ 従業員数	11名		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程 ※ 産業廃棄物の種類ごとに記入	発生→自己中間処理(自社)→収集運搬業者→リサイクル処理		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

川崎宇部社内規格 総-6章「産業廃棄物処理規定」のに基づき、廃棄物処理方法、収集運搬業者、委託処分業者及び、産業廃棄物中間処理施設の取り決めを行っている。収集運搬業者及び、処分業者と契約の締結を結び、産業廃棄物管理表を電子マニフェストにより管理、不適切な処理を未然に防げる管理体制を実施している。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度(令和4年度)実績】					
	<table border="1"> <tr> <td>産業廃棄物の種類数</td> <td>1 種類</td> <td>* 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。</td> </tr> <tr> <td>① 排出量</td> <td>4,600.0 t</td> <td></td> </tr> </table> <p>(これまでに実施した取組)</p> <p>当社に於ける産業廃棄物の発生量は、納入した建設現場の戻りコンの量により変動している。排出の抑制に関して、各納入現場に打設予定量と注文数量の隔たりが少ない、適正量の発注を依頼しているが、打設箇所の複雑な構造部位の計算や、打設時間の制約超過等により、戻りコンが日常的に発生している。戻りコンの削減対策として、今後も納入現場や、発注先の販売店に適正な納入数量の把握を心掛けてもらうように交渉を行っていく。</p>	産業廃棄物の種類数	1 種類	* 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。	① 排出量	4,600.0 t
産業廃棄物の種類数	1 種類	* 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。				
① 排出量	4,600.0 t					
② 計画	【(令和5年度)目標】					
	<table border="1"> <tr> <td>産業廃棄物の種類数</td> <td>1 種類</td> <td>* 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。</td> </tr> <tr> <td>① 排出量</td> <td>4,800.0 t</td> <td></td> </tr> </table> <p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>産業廃棄物の抑制の取り組みとして、引き続き、需要者である販売店および建設現場に、適正な納入数量の把握を依頼して、さらに戻りコンの発生の抑制に努めていきます。また、平成25年度から戻りコンをリサイクル処理業者に委託しており、自社で廃棄処分する、産業廃棄物の減量を実施しています。</p>	産業廃棄物の種類数	1 種類	* 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。	① 排出量	4,800.0 t
産業廃棄物の種類数	1 種類	* 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。				
① 排出量	4,800.0 t					

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	<p>戻りコンを分級機にかけ、スラッジ水、砂、碎石に分別を行っています。さらにスラッジ水は脱水機にかけ、上澄水と脱水ケーキに分別して、上澄水は生コンへの再利用、脱水ケーキは委託処分を行って、リサイクル処理をしています。</p>
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	<p>戻りコンから分別された、砂、碎石を生コンの使用材料として再利用する取り組みは、現状、JIS認定や様々な品質の問題を解決する必要があり、生コン需要者から使用許可が取れず、分級後は廃棄処理をしています。</p>

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
① 現状	【前年度(令和4年度)実績】			
	②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)			
② 計画	【(令和5年度)目標】			
	②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)			
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
① 現状	【前年度(令和4年度)実績】			
	⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	368.0	t	* 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。
(これまでに実施した取組)				
② 計画	【(令和5年度)目標】			
	⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	3,900.0	t	* 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。
(今後実施する予定の取組)				

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度(令和4年度)実績】			
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)			
② 計画	【(令和5年度)目標】			
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度(令和4年度)実績】				
	⑩ 全処理委託量		920.0	t	* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0	t		
	⑫ 再生利用業者への処理委託量		920.0	t	
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0	t		
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	t		
	(これまでに実施した取組)				

② 計画	【(令和5年度)目標】		
	⑩ 全処理委託量	900.0 t	* 種類ごとの本年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	900.0 t	
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	t	
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t		
(今後実施する予定の取組)			
※ 事務処理欄			

備考

- 1 この様式は、前年度(令和4年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
また、前年度(令和4年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあつては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和5年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

産業廃棄物処理計画書

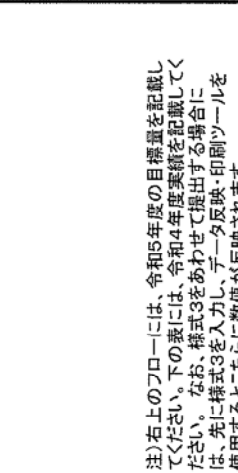
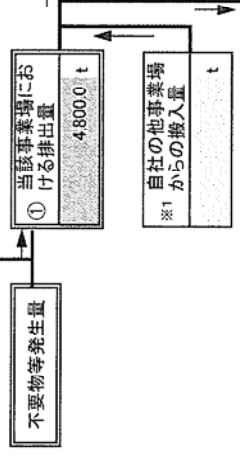
別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

産業廃棄物の種類	イ. 汚泥
不燃物等発生量	4800.0 t
当該事業場における排出量	4800.0 t
自社の他事業場からの搬入量	t
有償物量	t

※ 本用紙は産業廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる産業廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位: t/年)

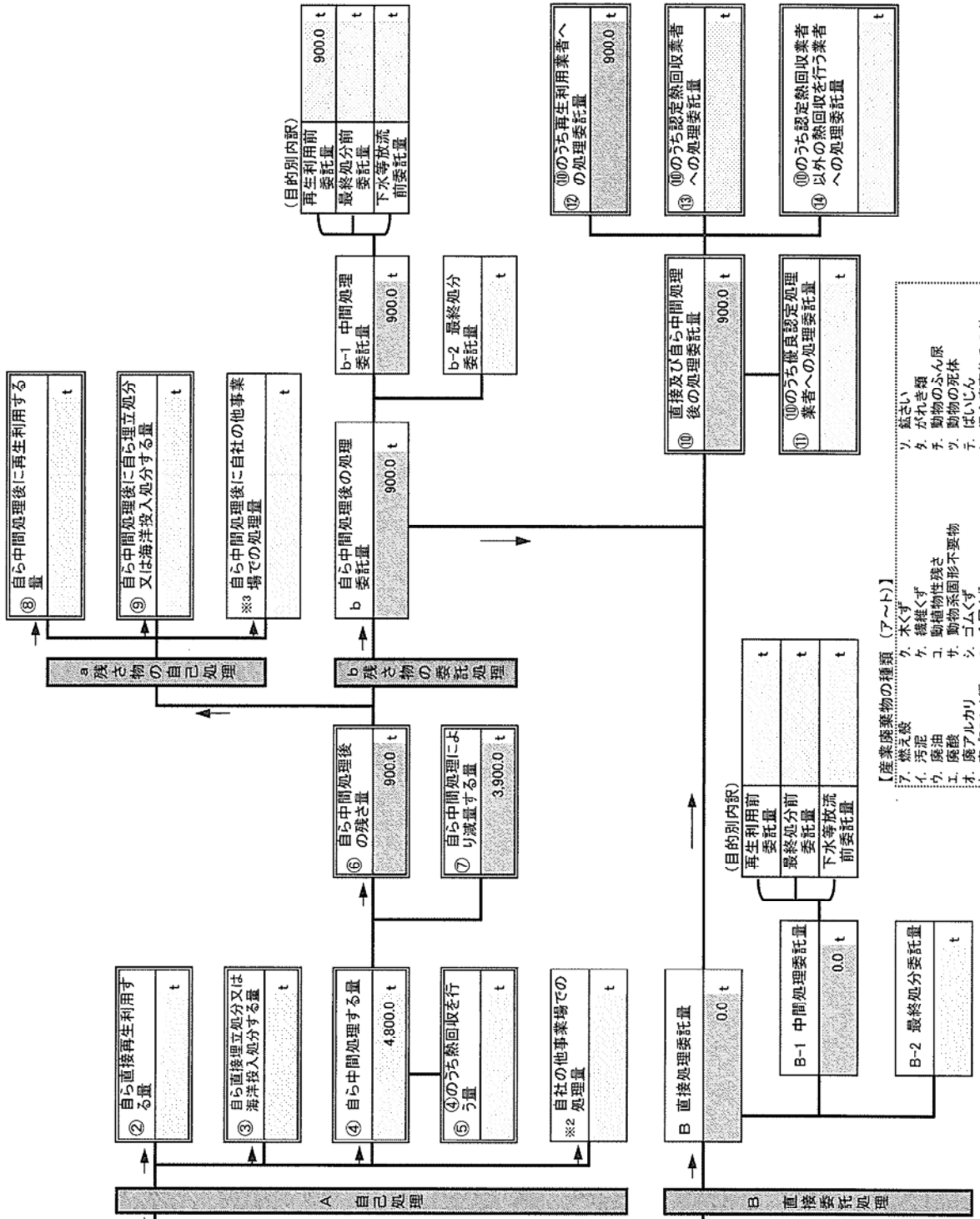


項目	令和4年度実績
① 排出量	4,600.0 t
②+③ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	388.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	920.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	920.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

注) 右上のフローには、令和5年度の目標量を記載してください。下の表には、令和4年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

事業場名称: 川崎宇都生コンクリート株式会社

2-2 法定 自主



- 【産業廃棄物の種類 (ア～ト)】
- ア. 燃え殻
 - イ. 汚泥
 - ウ. 廃油
 - エ. 廃酸
 - オ. 廃アルカリ
 - カ. 廃プラスチック類
 - キ. 紙くず
 - ク. 繊維くず
 - ケ. 動植物性残さ
 - コ. 動物系固形不要物
 - サ. 動物の死体
 - シ. ゴムくず
 - ス. 金属くず
 - セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
 - ソ. ばいじん
 - タ. 混合廃棄物その他